

問 ADSLから光ファイバーへ計画変更する考えはないか。

答 町としても現在検討中である。ADSLは、平成18年度に鬼北町ブロードバンド整備事業検討委員会を立ち上げて検討を重ね、加入者募集を実施し、事業実施の目処もついていた。しかし、テレビの地上デジタル化の動きが本格的になり、研究・検討をしたところ、光ファイバーを導入することで、ブロードバンドサービス、テレビのデジタル化、携帯電話、防災行政無線等の諸課題の解決が一举に図ることが可能となるものと思われることから、その検討に要する経費を今回の9月補正予算に計上している。

〈平日診療所入院施設活用について〉

問 未使用施設を転用する考えはないか。

答 国の補助事業により整備された施設であること、感染症の関係から診療所部分と転用する部分との仕切りを設置するとともに、出入口を別に設置する必要があることなど、未使用施設の転用はいろいろな問題がある。それらも踏まえて、関係課で協議検討をしている。今後、県等関係機関の指導も受けながら、施設の有効活用について、更に協議を重ね、施設の有効な活用ができるよう進めていきたい。

〈一般廃棄物最終処分場建設計画について〉

問 住民に最も身近な廃棄物処理施設建設は最優先すべきではないか。

答 議員ご指摘の鬼北町単独での処分場建設は、環境アセスメント、用地選定、測量設計等、施設の建設までに3年から4年の期間を要し、町財政にも大きな負担を強いる。町としては、現在町から排出される粗大ごみの分別処理業務を委託している東温市のオオノ開発川内処分場の能力に十分な余力があるので、今後も引き続きその処理業務を委託していきたい。

今後における最終処分場の整備については、平成15年2月に策定した「愛媛県ごみ処理広域化計画に係る宇和島ブロックごみ処理広域化計画」に基づき、宇和島地区広域事務組合が主体となり、今年6月に一般廃棄物処理基本計画の見直しを行い、新たに「最終処分場建設計画」を公表したところである。これによると宇和島地区広域最終処分場の建設を平成27年度とし、平成28年度に共用を開始したい旨、定めているところである。先の経緯からして、当町としては、広域化計画に基づく最終処分場建設が最善ではないかと考えている。

山本 勸 議員

〈出張旅費の不正問題等について〉

問 平成15年度から平成19年度までの諸会合の出席・代理出席について伺う。

答 公開していることなので間違いない。欠席した時もあるが、当時は助役、今は副町長が、それぞれ私の出席できない時は、概ね代理出席をしている。

問 町村会の諸会合で支給される旅費、日当、宿泊料を受け取ったことがあるか。

答 受け取っている。

問 町村会と町から支給された日当の二重取りについて、これまでに一度でも町へ返還したことがあるか。

答 返還したことはない。不注意であり、速やかに返還するということで取扱いをさせていただいた。

問 町村会から支給された交通費を返納したか。

答 町村会の方から請求をいただき、返還をしている。

問 住民の信頼を失墜する行為ではないか。

答 町政座談会、敬老会など機会を得てお詫びをする同時に、今後の処置について皆さん方に報告している。深く反省をして、現在しかるべく措置を順次とっている。

問 代理出席した副町長に支給された旅費の受取について。

答 副町長についても私と同じであり、誠に軽率な行動であったと深く反省している。町村会の請求に基づいて返還をしている。

問 代理出席した副町長に支給された日当を町長が承認していることは町行政のトップが不正の温床をつくることになるが見解を求めらる。

答 旅費の二重取りは十分な点検を行わず、安易な判断で決裁をしており、誠に申し訳ない気持ちでいっぱいである。副町長についても深く反省とお詫びを申し上げているところである。

問 これまでの15年間どのように職務と責任を認識されて行政執行をされてきたか。

答 町民の皆さんの安心・安全、福祉の町づくり、そして町の発展を基本に考えて施策推進をしてきた。私自身最高責任者として、できるだけ皆さん方に内容を報告しながら、開かれた行政を実施してきたつもりであるが、今回の件は、無頓着、安易な考えでこういうことになり、深く反省をすると同時に今後の処置についても責任の一端を明確にしていきたい。今後のことも、広く皆さん方からご意見をいただきながら、自分の身の処し方は考えている。

問 どのような観点のもと、副町長を選任したのか。

答 能力、資質に優れており、私利私欲に流されない公平な人間だ